

史跡岡山城跡本丸下の段

発掘調査現地説明会資料

岡山市教育委員会

日時：平成 23 年 2 月 26 日（土）10:00～12:00

場所：岡山市北区丸の内 2 丁目地内（史跡岡山城跡）

はじめに

岡山市教育委員会では、史跡岡山城跡保存整備事業の一つとして、平成 22 年 12 月から本丸下の段（テニスコート跡地）の発掘調査を実施してきました。このたび調査がほぼ終了したため、みつかった遺構や遺物を公開することとなりました。

調査成果の概要

今年度の調査では、元禄 13 年（1700）年に作成された『御城内御絵図（おんじょうないおんえず）』という本丸の建物配置図に記述されている「春屋（つきや）」と「供腰掛（ともこしかけ）」の残存状況を確認することが主な目的でした。

調査の結果、『御城内御絵図』に記されている春屋と供腰掛の基礎を確認できました。春屋内部にはカマドがあり、建物の周りには排水溝を廻らしていたことが明らかになりました。しかし、春屋の西側部分については、基礎などはほとんど失われており、建物の正確な規模についてはわかりませんでした。供腰掛も礎石や土間と軒下の石敷が一部残っていました。春屋に比べて簡素な建物だったようです。これらの建物は、岡山城廃絶の頃まで使用されていたようです。

出土した遺物は、瓦や陶磁器の他、貝や魚骨などの食物残滓があります。この他、カマドの周囲から火打石が出土しています。

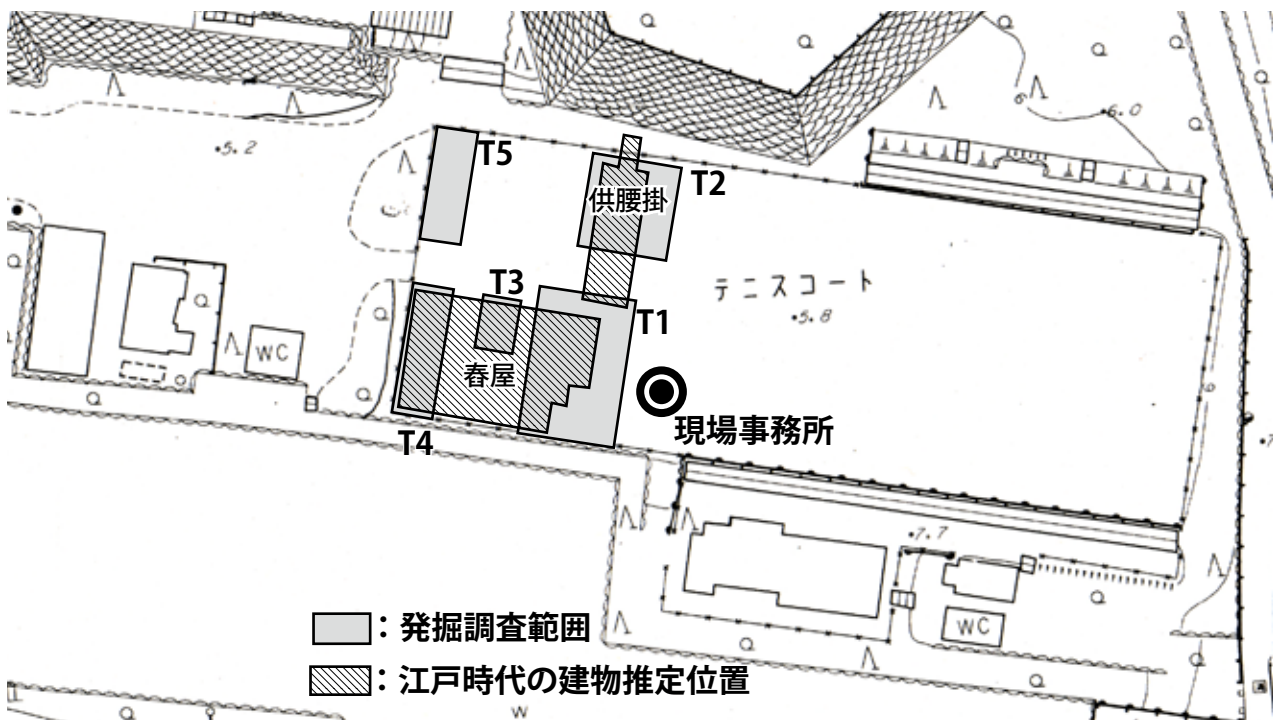


図 1 2010 年度の調査範囲

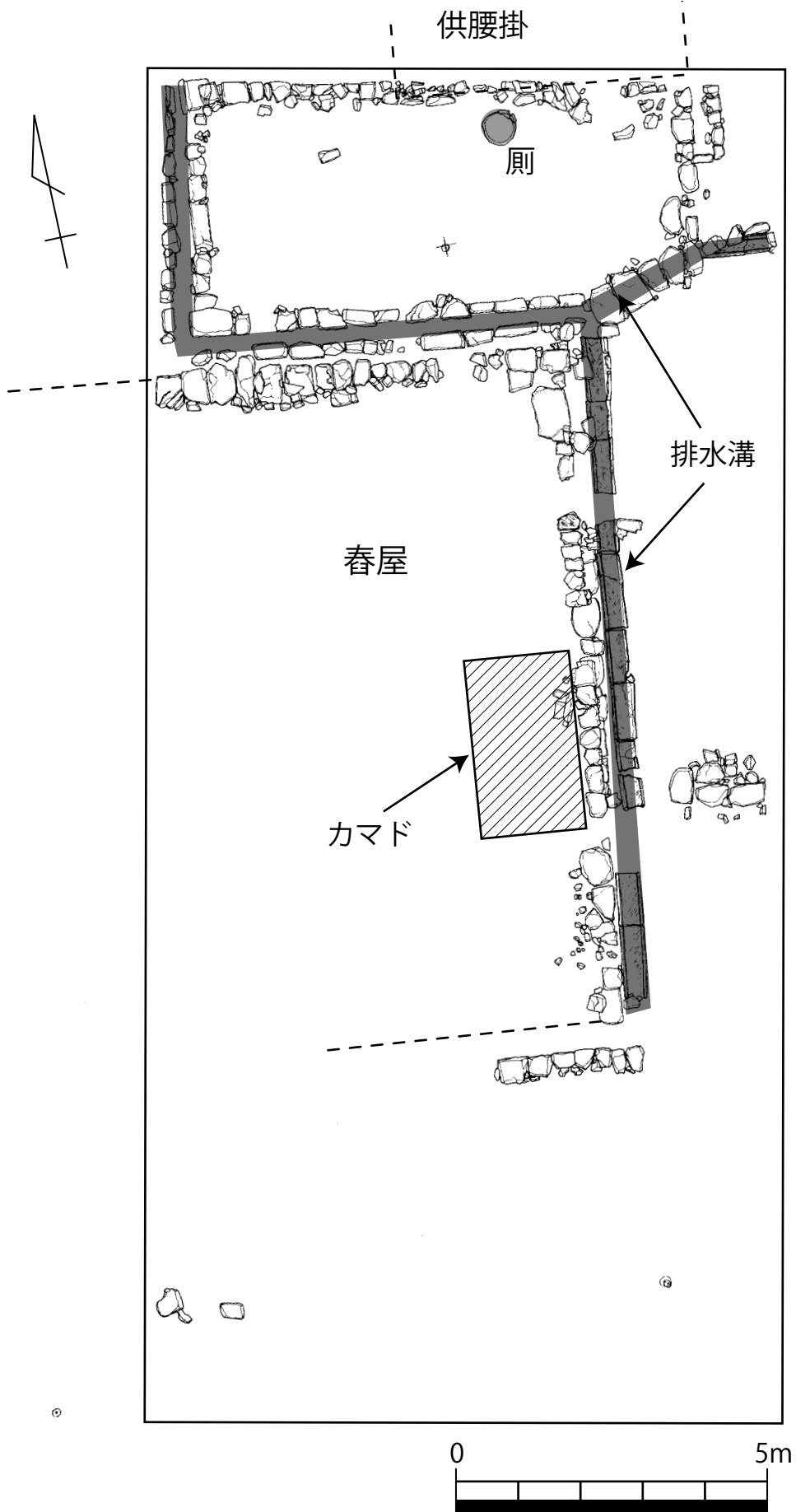


図2 春屋平面図 (1/100)

春屋は玄米を精米する施設です。本丸ではこの場所以外に、下の段に1カ所、本段に1カ所あったとされています。今回発掘した春屋は内部にカマドが設けられていました。建物の周囲からは貝や魚の骨がみつかっており、実際に調理施設として使用されているようです。また、火打石も出土しました。一度建て替えが行われており、最初に置かれた基礎の上に、さらに石を組んで基盤造成しています。また、建物の周囲には排水溝が設置されていました。排水溝の一部は豊島石を利用していることがわかりました。建物の正確な規模は把握できませんでした。建物の東北部分を中心に全体の1/4程が残っており、西半部の遺構はほぼ壊滅状態でした。出土した遺物から、今回確認した遺構は、上の基礎が岡山城廃絶頃まで存在し、下の基礎は、18世紀代に建て替えが行われたものと考えられます。

ともこしかけ
供腰掛

供腰掛は、登城した武士などの家来が、主人の用事が済むまで待機する場所だったと考えられます。供腰掛は中の段にも存在していますが、発掘調査されたのは今回が初めてです。

これまで発掘されてきた、蔵などと異なり、堅牢な石組みの基礎は確認できませんでした。建物の出入口は西側に空いており、雨落ちには石敷があることを確認できました。建物の規模は、東西約5m、南北14mあり、南辺はT1の壁際からみつかっています。出土した遺構面は近代の造成面に接しており、今回確認した供腰掛は、岡山城が廃絶された明治初年頃までに使われていたと考えられます。

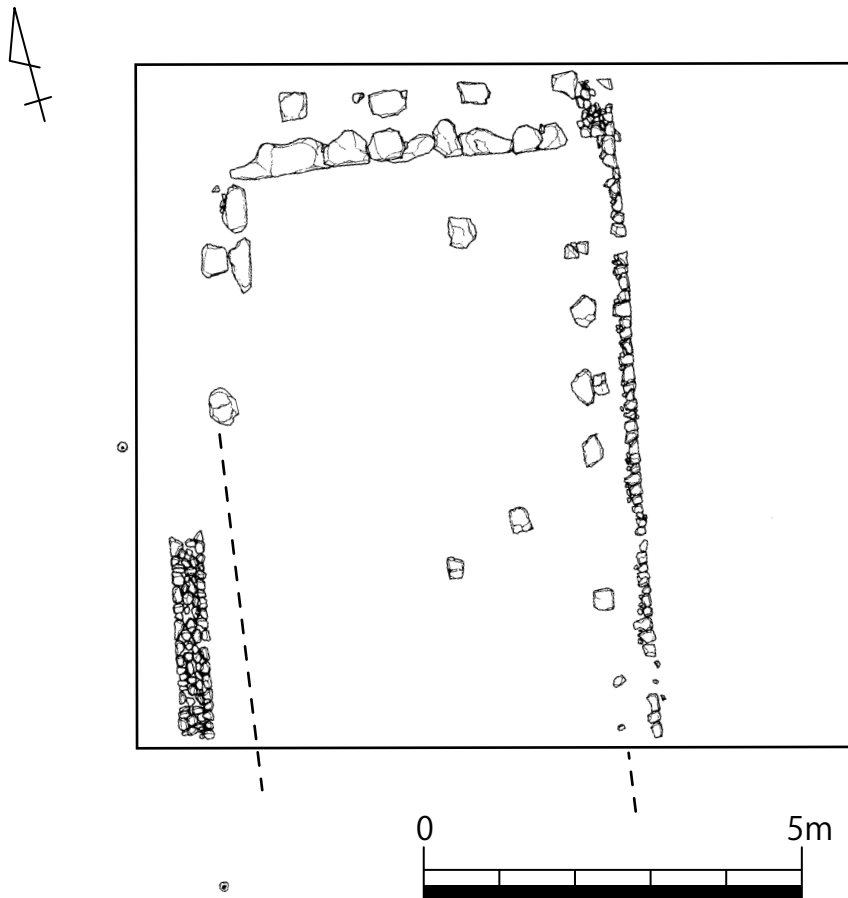


図3 供腰掛平面図 (1/100)

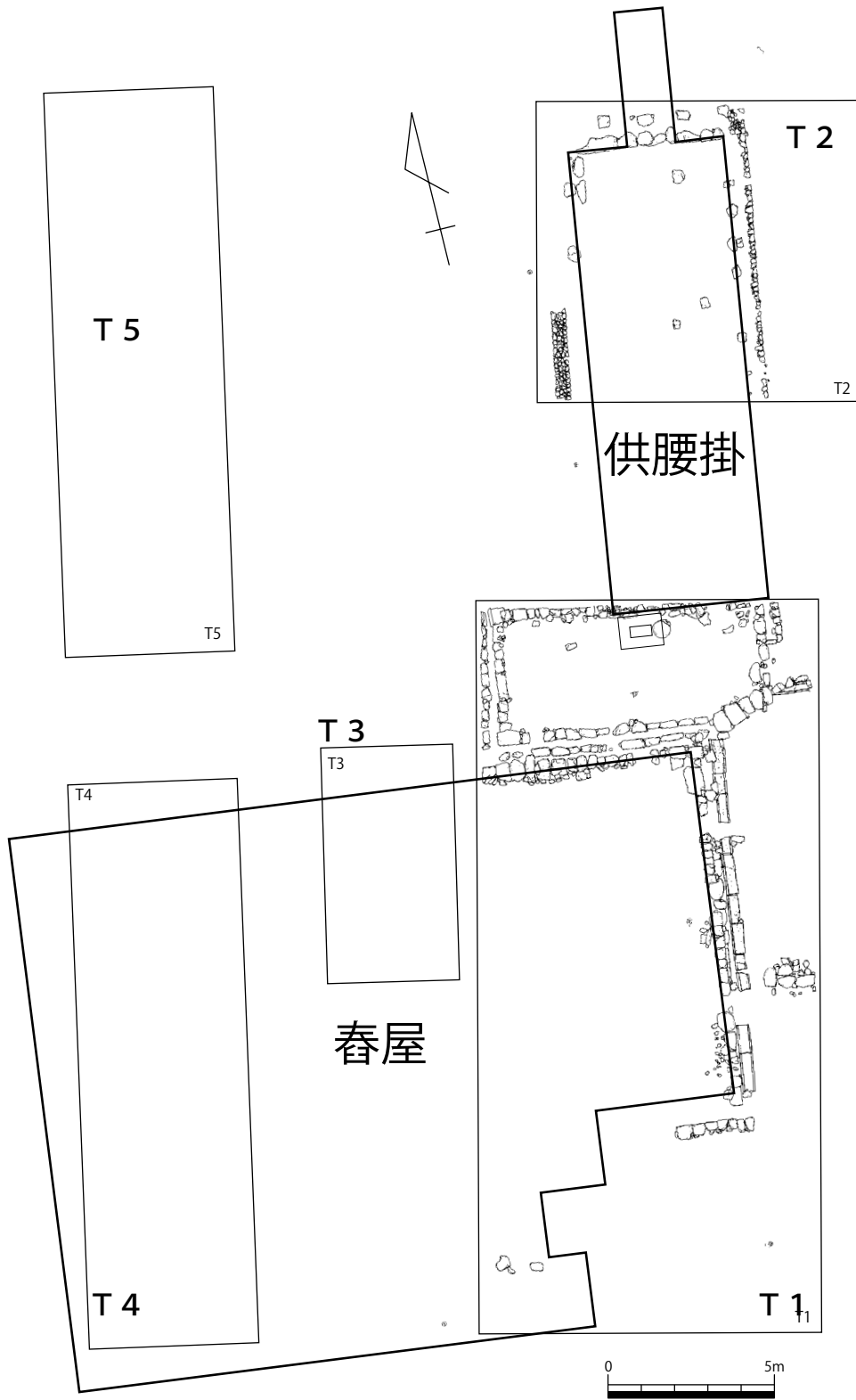


図4 春屋・供腰掛の推定範囲 (1/200)

※御城内御絵図 (1700年作成) から推定